

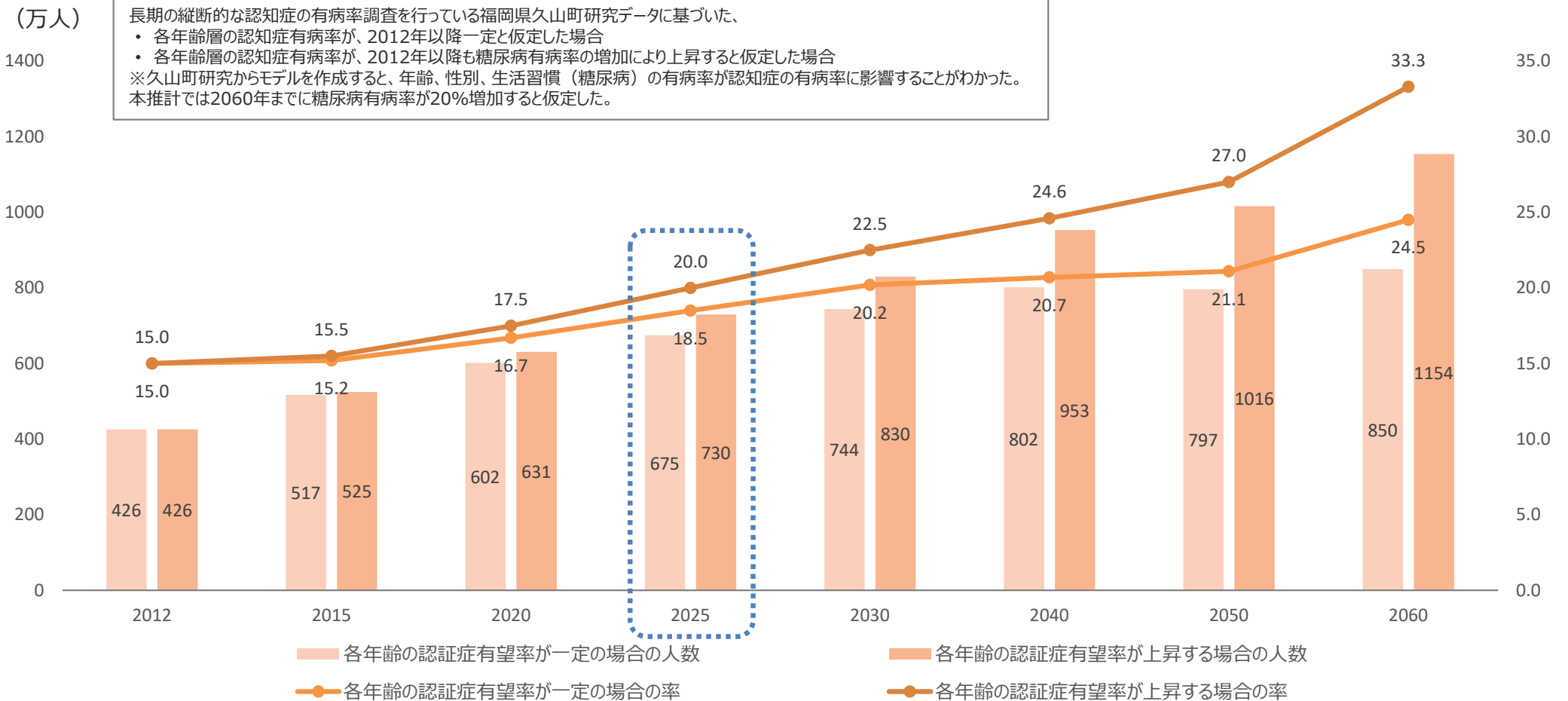
認知症の本人と企業との“共創”による 「当事者参画型開発」の取り組み

2023年7月

高齢社会イノベーショングループ^o

認知症の推定者数と推定有病率の推移

- 国内の認知症患者数は2016年は462万人（65歳以上の高齢者の7人に1人が発症）、2025年には**700万人（65歳以上の高齢者の5人に1人）**と試算されている。
= 既に我々は**「認知症がごく当たり前の社会」「認知症とともに歩む時代」**に生きている。
※小学生（622万人：2021年度）よりも、認知症の人の方が多き時代
- 2023年6月14日には**「認知症基本法」（共生社会の実現を推進するための認知症基本法）**も成立。



認知症との「共生」社会づくり

経済産業省、厚生労働省の重要な政策形成・推進に関与しつつ、民間事業者の調査研究やビジネス開発も支援。産官学のハブとして「認知症共生社会」の構築に取り組んでいる。

官公庁

- 認知症当事者参画による企業との「共創」(経済産業省)
- 認知症施策のあり方に関する調査研究(厚生労働省)

KAERU株式会社

認知症になっても安心して買物ができる決済サービス



民間

- 認知症の診断・治療技術イノベーション創出を見据えた環境整備に関する提言(イーライリリー)
- 認知症者の日常生活支援技術開発(通信)
- 在宅高齢者の見守り・支援サービス(電機)

認知症になっても、
誰もが、自分らしく、暮らしやすい「共生」社会

自治体

- 認知症にやさしい官民連携での街づくり(福岡市、京都府、富山県、土浦市など)

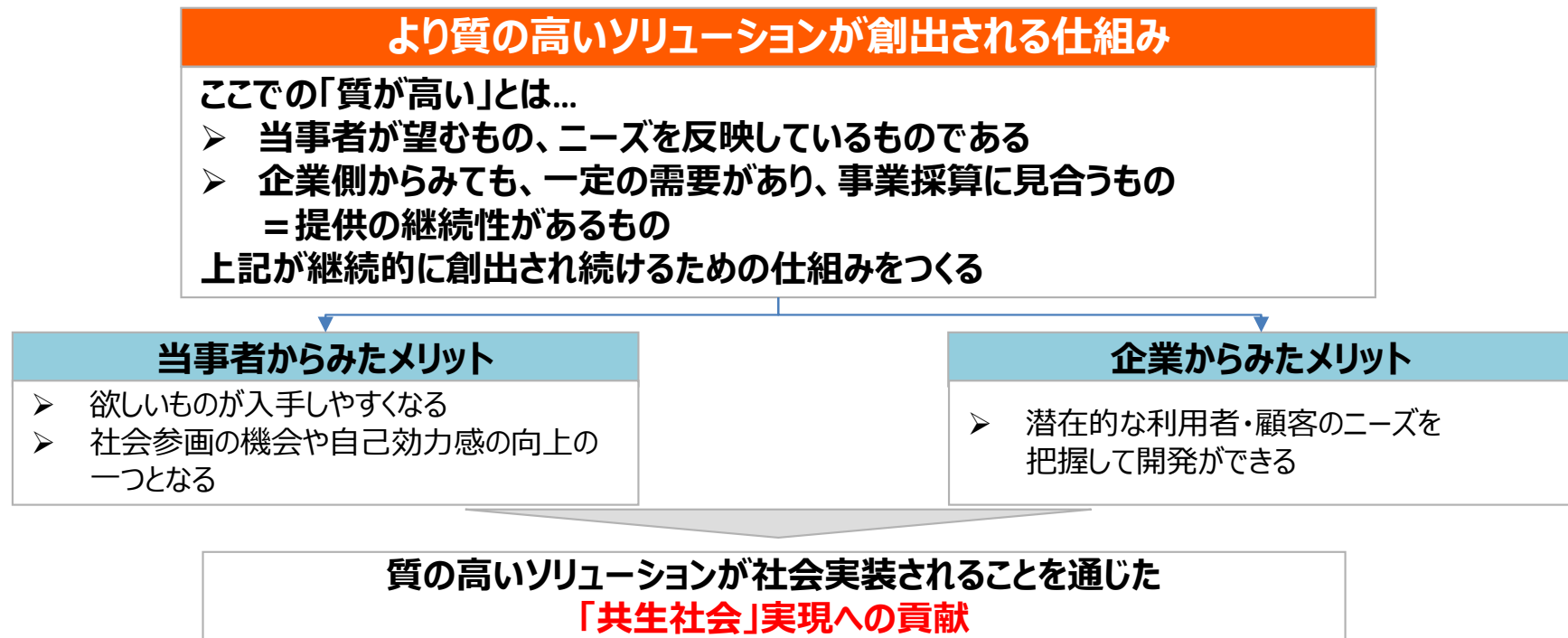


学・アカデミア

- 認知機能低下×金融経済取引の支援技術開発(慶應義塾大学、内閣府SIP予算)
- 認知症予防に関する民間サービスの開発・展開にあたっての提言(認知症関連6学会、経産省委託)

当事者参画型開発の取り組みの目的

- 経産省では、認知症との「共生」に向け、認知症当事者のニーズにフィットした製品・サービスを拡充すべく、ユーザーである本人に参画してもらう「当事者参画型開発」の普及に取り組む。
- 本取組の目的は、共生社会実現に資する質の高いソリューションが創出される仕組みの構築。当事者の真のニーズに合致する質の高いソリューションの創出のためには、当事者が主体的に企業と「共創」を行うことが必要。



本取組における「当事者参画」、「開発」の定義・考え方

- 本取組における「当事者参画」とは、「製品やサービスに対するニーズをもつ**当事者（本人）自身が、協力の意思を持って、**それらの製品・サービスの開発プロセス（企画、実施、評価等）に『参画』すること」と定義する。
- **当事者の主体的な協力意思を伴わない、一方的な観察や意見聴取は「当事者参画」とは言えない。**
- 「当事者のニーズを反映した製品・サービス」であること条件として、当事者の意見が**製品・サービスの「コアあるいはそれに近い部分」への反映を意図したものである必要がある。**
- ここでの「開発」は新しい製品・サービスの創出だけでなく、既存の製品・サービスを当事者の意見をもとに改良することも含む。

昨年度までの取り組みの実施状況および成果

- 昨年度までは、当事者との共創による製品・サービスの開発に関心がある企業を募集し、参画を希望する当事者とのマッチングを実施し、共創の場の運営を支援。
- 当事者が抱える複数の生活課題で当事者参画型開発モデルを適用。

実施成果

多くの当事者が参画、アプローチとしての有効性を検証のべ200名以上の認知症当事者が参画。結果、企業側から「ユーザーニーズに合致した開発につながった」、当事者から「自身が必要とされている気持ちになった」等の前向きな意見をいただいた。

当事者

パートナー
自治体

- ・ 福岡県福岡市
- ・ 京都府
- ・ 神奈川県大和市 など

当事者

パートナー
団体

- ・ 日本認知症本人WG
- ・ 認知症の人と家族の会
- ・ 認知症未来共創ハブ
- ・ NPO法人マイWay など

当事者

パートナー
介護事業者

- ・ SOMPOケア株式会社 など

事務局（経済産業省／日本総研）

A社
(移動)

ライオン
株式会社
(口腔ケア)

認知症になっても口腔ケアを自宅で継続できるサポートサービス

KAERU
株式会社
(買い物・小売)

認知症になっても安心して使えるプリペイドカードとスマートフォンアプリを組み合わせた決済サービス

株式会社
ミートショップヒロ
(食)

認知機能や嚥下機能が低下してもおいしく食べられる弁当・介護食

E社
(料理)

実施成果

ニーズを踏まえた製品・サービスの開発進展、当事者参画のノウハウの整理・発信各社、プロトタイプ作成、市場投入の決定など開発プロセスが進展。ノウハウは『企業向け手引き』として取りまとめ発信。



認知症になると何が困るのか ~生活シーン別の困りごと (抜粋) ~

衣

- 服をしまった場所がわからない
- 「下着」とラベルをつけた収納から、パンツを出せない
- 服を着るのが難しい
- 靴や靴下・スリッパをはくのが難しい
- メイクをする、髭をそる、アクセサリをつけるのが難しい
- 着替えの手順を間違える
- 気候や場に応じた服や持ち物を選ぶのが難しい

食

- 火をつけたことを忘れてしまう
- 冷蔵庫に何が入っているかわからない
- 食事のメニューが思い浮かばない
- 味付けがわからず、薄味になる
- 食べ物の匂いがしない
- 調理時間がわからない
- 食事のタイミングがわからない
- 茶碗やコップがうまくもてない
- ふたや袋が明けられない
- 味噌汁をつくる工程がわからなくなる
- 注文する弁当の数を間違える
- 意図せず他人の皿の料理を食べてしまう

住

- 家電や文具など、新しいものの使い方がわからない
- 家電の操作が難しい
- トイレのドアがどれかわからない
- 異なる場所を自宅と思い込む
- アナログ時計が読めない
- ドアがスムーズに開けられない
- 鍵の開け閉めが難しい
- ゴミの収集日がわからない
- 仕事・通院・デイサービスなどの定期的なスケジュールがわからなくなる
- 明るい照明が、目に刺さるように感じる

健

- 薬を飲み忘れる
- 便座の場所がわかりにくい
- 水分補給をするタイミングがわからない
- 夜眠れなくなる
- 歯磨き粉を歯ブラシの上に絞れない
- 歯を上手に磨けない
- お風呂の温度がわからない
- 運動中、自分の身体を思い通りに動かせない

買

- 会計の金額を覚えていない
- 支払う金額の計算ができない
- 会計せずに帰ってしまう
- 自分が買い物をしたことを忘れ、何度も買ってしまう
- 目当てのものが見つけられない
- 大きさ・色の違いで硬貨を見分けることが難しい
- 財布からお金を出せない・しまえない
- レジで複数のことを言われると混乱する
- 館内放送が耳障りで疲れる

金

- お金を引き出したことを忘れる
- 通帳・印鑑など、貴重品をしまった場所を忘れる
- お金を盗まれたと思い込む
- ATMの操作方法がわからない
- 仕事や公的手続きなどの説明を聞いても理解できない

働

- 完了した仕事どれかわからない
- 商品情報が覚えられない
- 書類を作っている、他のことが気になりミスをしてしまう

移

- 降車駅や目的地を間違える
- ちょっとした段差や隙間で、電車やバスに乗れない
- 階段を降りるのが怖い
- 案内サインが見つけれられない
- もと居た場所・来た場所に戻れない
- 道順を説明されても理解できない

交

- 聞いたことをあつという間に忘れる
- メールアドレス・グループを探せない
- 家族や親しい人の顔がわからない
- 複数人の会話についていけない
- 言葉が出づらく、会話が滞る
- 人の名前が覚えられない

遊・学

- テレビで見た内容が頭に入らない
- 本・新聞など、改行がある文を読むのが難しい
- 少し本を読んだだけで疲れてしまう
- 漢字をひとまとまりの文字として読めない

出典：筧祐介「認知症世界の歩き方」

今年度の取り組み：開発企業の公募の紹介

- 経産省事業として今年度も継続しており、当事者団体を含めた多様な関係者との対話を重ねながら、より多くの企業が認知症当事者との「共創」に取り組めるような当事者参画のためのプラットフォーム（ネットワーク）の構築に向けた取り組みを実施中。参画企業の拡大に向けて、実践企業の公募を実施。

募集対象

「当事者参画型開発」の手法を用いて、認知症当事者の生活課題の解決や、やりたいことの実現に資する製品・サービスの開発に取り組む企業・団体

公募条件としては、以下を想定。（※今後変更の可能性あり、最新情報は弊社HPをご確認のこと）

- ・ 年度中に当事者参画の実践を少なくとも1サイクル行うこと
- ・ QOLおよび経営面のエビデンス検証に協力すること（ヒアリング調査や外部エキスパートによる評価等を想定）
- ・ 年度末のイノベーションアライアンスWGで成果報告が可能なこと
- ・ 令和4年度イノベWGの成果物「企業向け手引き」の内容を遵守すること

公募時期

第1回公募（7月24日～8月10日締切）

第2回公募（9月頃）

※当事者とのインタラク션을体験できるワークショップを8月頃に開催予定。

採択後の支援内容

有識者等による審査会を経て、実践企業を採択する。（第1回・第2回あわせて15～20社程度を想定）
採択された企業には以下の支援を予定。

- ・ **開発に参画する認知症当事者の紹介・マッチング**
- ・ **認知症当事者との共創の実践の支援**
- ・ **経済産業省事業としての情報発信・プロモーションの支援**
- ・ **プロトタイプ構築に向けた事務局（日本総研）による伴走支援（定期的な打ち合わせなど）** 等

※事業経費への補助金の交付等は予定しておりません